

## 小学校低学年

家庭は・・・

- ☆ 集団のルールを守る、人としてやってはいけないことを教える場
- ☆ 自然や美しいものに感動する心を育てる場

小学校に入学するとき。もう小学生だから自立させようとあせらないでください。子どもの発達には個人差があります。様子を見ながらできることを少しずつ増やしていきましょう。手を放しても目は放さないでくださいね。子どもたちは家族の皆さんが見守ってくれているだけで安心するものです。

・小学校入学で子どもの世界は大きく広がります。家族などの小さな集団の中で生活していた幼児期から少し大きな集団にはいつの生活が始まるこの時期には、集団生活の規則やルールを学ぶことが大切です。身近な大人である家族が言葉や行動で示すことを子どもたちは「ルール」として受け止めます。ですから、家庭内でルールを決めて、家族みんなと同じように守っていくことが大切です。

ルールはたくさんありすぎると混乱しますから、「これだけは」という家族のルールをいくつか決めてみましょう。「夕飯は〇〇時から」「〇〇時までには家に帰っていよう」など、ポイントになる時間を守ることをルールに取り入れてもいいですね。そして、なぜそのルールが必要なのかを教えたり考えさせたりすると、子どもなりに理解を深めるものです。

・この時期はいろいろなことに興味を示し、自分の世界を広げていきます。「なぜ飛行機は空を飛べるの?」「結婚したい人がいたらどうしたらいいの?」などいろいろな質問を投げかけてきます。「いい質問だね。」「いいことに気が付いたね」などとまずは認めてあげてください。そして、わかることには答えてあげましょう。でもちょっと難しいことには「お父さんもわからないなあ。なぜだと思う?」などと問い返してみるのもいいですね。案外想像力豊かな楽しい答えが返ってくるかもしれません。

子ども用のたくさんの種類の本が出版されています。「飛行機はなぜ空を飛べるの?」と質問してきた子どもに、飛行機に関する本をわたしたら、きっと興味を持って読むのではないのでしょうか。子どもの興味に沿った本や資料をタイムリーに与えることはやる気をくすぐります。

・自然に触れのびのびと過ごす時間をたくさんとりましょう。

休日には遠出をしなくても身近な山を歩いたり、近くのお寺や神社をゆっくり見てみたりするのもいいですね。

島田にはたくさんの自然があります。たとえば、野田の丁仏参道をゆっくり歩いて千葉山まで歩くのはどうでしょう。ゆっくりと子どものペースで歩きながら、周りの自然を観察しましょう。ミミズやバッタなどの生き物にも出会えますよ。途中、眺めの良いところで休憩しながら市内を見渡し、「我が家はどのへんかな」など子どもと探してみるのもいいですね。

大切なのはお父さんお母さんが楽しむこと。風が吹いてきたら「気持ちがいいねえ」

木の葉が風でゆれてざわざわと音がしたら「木の葉もお話ししているみたいだね。なんて言ってるのかな」などと子どもに話しかけましょう。虫や小動物を見つけたら、怖がらず子どもと一緒に観察してみましょう。

帰宅したら、スケッチブックにどんな植物や生き物に出会えたか、どんなものを発見したかなど絵や簡単な言葉で書いておくと家族の思い出になります。

毎年5月の恒例行事にしてみてもはどうでしょうか。同じ道でも発見するものや感じることは変わってくるものです。記録を残したスケッチブックを見ながらその変化を楽しむのもいいですね。

・家の中でのお手伝いにくわえて、回覧板をもっていくなど地域の方と触れ合えるようなお手伝いを加えてみましょう。

「こんにちは。回覧板をもってきました。お願いします。」など簡単な挨拶を教えてお隣さんと触れ合う機会を作りましょう。

・お話タイムを持ちましょう。

食事のあとなど決まった時間にとるといいですね。長くなくても5分でも10分でもいいでしょう。子どもの話を聞く時間ととらえてください。

「あなたの名前は誰が考えたのでしょうか」「あなたは何グラムくらいでうまれてきたのでしょうか」などクイズ形式にすると子どもも楽しく参加できます。大切なのは「あなたのことを大切に思っているんだよ」という家族の思いを子どもに感じさせる時間にあること。時には実際の言葉で伝えることも大切ですが押し売りにならないように気を付けましょう。

・必要な時には家族会議を開きましょう。

スマホが欲しい、ゲームがしたい、など「みんなやってる」という言葉でなんとか手に入れようとしてます。そんな時には家族会議を開きましょう。もちろん「家は中学校からと決めている」というご家庭では、なぜそう考えたのかを加えて子どもに説明しあきらめさせましょう。

家族会議ではスマホを持つことの便利さと危険性をあげて、危険を避けるためのルールを子どもに考えさせることも大切です。できれば、SNSを含むインターネット上の情報には誤解や間違いがたくさんあることも知らせたいことです。

なにより SNS 上での友達関係しか考えられない子になってほしくないものです。そのためには、人と人が面と向かって話をしたり活動したり、実際に友達と一緒に遊んだりすることの楽しさをうんと味わわせたいのもです。

## 小学校高学年

家庭は・・・

- ☆ 相手の気持ちを考える体験をさせる場
- ☆ 自分は人の役に立っていると感じさせる場
- ☆ 家族の中での役割を自覚して責任をもってやろうとする気持ちを育てる場
- ☆ 家族以外の地域社会への興味を育てる場

・自分のことを少しずつ客観的にみられるようになります。この時期には良さをたくさん認め、自分はいいところがたくさんあるんだと感じさせることが大切です。

まずはできていることをきちんと認め口に出してほめましょう。そして、できそうなことを子どもが自分でやるように仕向け、少しでもできたら大きくほめましょう。

小さい時から続けている手伝いの質をあげていくこともいいですね。例えば、食事の手伝いでは今まで食器を並べていたところから、実際に包丁を持たせて野菜を切る仕事を加えるなど、今までより難しくしてみるといいかもしれません。もちろんはじめは教えながらですが。そして、ほめるときには、子どもが手伝ってくれたことで、家族が助かっている、うれしく思っているとしっかり伝えることが大切です。自分のやったことが自分以外の人の役にたっているという思いを持つことができる子は、自信をもって次のことに挑戦することができるようになります。

・地域の活動に積極的に参加しましょう。

子どもだけで参加できればそれで構いませんが、親子で一緒に参加するといいですね。地域防災訓練、地区子供会の活動、コミュニティーセンターの活動など島田市にはたくさん地域活動が計画されています。お父さんお母さんも一緒になって積極的に参加してみましょう。活動の場で地域の方々との新しい出会いがあり子どもたちの世界もまた広がってきます。子どもたちには家族、学校以外の新しい世界ががで、視野が広がってきます。

・家族の恒例行事を作りましょう。

お正月、節分、子どもの日など折々の行事、また、誕生日など家族の特別な行事など、家族で決めて恒例行事にすると楽しいですね。この時期には様々な活動の計画をすることもできるようになります。どんな内容にするのか子どもに考えさせると楽しいです。子どもが考えたことはできるだけ実現させてやりたいので、計画を練る前に、予算、時間など最低限必要な条件を示しておくといいですね。

・この時期のお話タイムの話題は、新聞やニュースから取りあげるのもいいですね。

「スーパーでレジ袋がもらえなくなったよ。困ったなあ。」など日常の生活にかかわることから話し合っていくと、環境問題など世界に目を向けることができるようになります。ここでは決して親の考えを押し付けないこと。一個人としての自分の考えを言うのはいいのですが、大人が言っていることが正しいことだと押し付けないことが大切です。子どもに自由に考えさせ、視点を世界に広げさせるのが狙いからです。